

（二爲中洲 みしま ちゅうしゅう）漢學者、文學博士。文政十二年十一月九日備中國生  
 乳、大正八年五月十一日没（二〇三—一九九）。講毅、宇遠叔、幼名廣次  
 郎、通稱貞一郎。別號上田中洲、中洲學人、中洲居士、中洲毅、中洲  
 漁仙、中洲漁籟、中洲老人、中洲老生、桐南、耆毅、陪鶴櫻史、陪鶴  
 老仙、陪鶴老憐、陪龍、風流判事等。昌平坂學問所の學心、松山藩費  
 有終館會頭となる。維新後新法裁判所所長等を経て、明治十年、松學  
 舎を創設。のち東京高等師範學校教授、帝國大學教授、東京洋行講、宮  
 中顧問官等歴任。山口角鷹編『二爲中洲』、『松學舎の創設者』（昭和  
 五十一年七月十日、松學舎）刊。

著書『霞浦游藻』（明治九年八月春香齋刊、別所平七發兌）、可其書妻  
 文詩』（川田倉江合著・高木弘平輯、明治十二年八月、再刊、十二年  
 一月有鄰堂）、『小園南錄』（大塚尚編、明治十六年十一月一日編・  
 村松要一郎出版、尚弘所發賣）、『五龍玉乃先生傳文』（撰、明治一  
 十二年八月、無刊記）、『秋聲白露』（合著・研學會編、明治二十一  
 年十二月二十九日研學會「研學叢書」）、『留世留世 養家董百機』（合著・關  
 如來編、明治二十二年十月七日文祿堂）、『中洲講話』（明治四十二一  
 年十一月五日又善堂書店）、『吉田松陰』（合著・帝國教育會編、明  
 治四十二年十二月二十日弘道館）、『文章軌範評注』（評注、明治  
 四十四年六月八日寶文館）、見二爲 博士老子講義』（内題「老子講義」大  
 正四年十月



正四年十月  
 十五日 明治  
 中外  
 出版協會  
 出版所



『中洲文稿・第四集』全二冊  
齊藤殊、佐倉信孫、細田謙、兒島敏、池田胤、那智典

校、大正八年四月十四日（弘道舎）等。